

元気で新しい八尾のまちづくりを考える 市民懇談会(第4回)議事概要

日 時：平成 21 年 3 月 2 日（月）午前 10 時から正午

場 所：教育センター集会室

出席者：委員 17 人（欠席 3 人）、事務局 6 人（内コンサルタント 1 人）

1. 開会

・事務局から以下の報告がありました。

- ・ 2 名（高見委員、原委員）が欠席である。
- ・ 北村委員から「提言書作成の進め方についてのご提案」をいただいた。
- ・ 市民懇談会から頂いたコメントを掲載した「総括レポート」を 3 月下旬に委員に送付する。

2. 座長挨拶

・初谷座長からご挨拶がありました。

- ・ 限られた時間の中で膨大な作業にご尽力頂いたことに感謝したい。本日から第 4 次総合計画の総括を活かし、第 5 次総合計画の策定に向けて議論していければと思う。引き続き、熱心な議論をお願いしたい。

3. 議事

1) 本日の進行について

・提言書作成の進め方の「たたき台」について、初谷座長から説明があり、それを受けて市民委員から下記のご意見がありました。

- ・ 4 次総計で計画したことのうち、実行できていないことについては、引き続き取り組む必要がある。5 次総計については全く新しい計画というよりも、4 次総計の内容に少し新しいことをつけ加えたような計画をイメージしている。
- ・ 4 次総計の達成状況を確認した上で、次の取組を進めていくべきである。
- ・ 各分野の活動に関わっている市民の意見を聞きたい。タウンミーティングに参加したところ様々な課題が見えてきた。出てきた課題について誰が対応していくのかを検討していく必要がある。タウンミーティングの結果を市民懇談会で配布していただきたい。
- ・ 匿名でもよいので職員個人の考えやアイデアを把握できるとよい。また、必要な情報について職員から問い合わせがあれば、市民懇談会のメンバーのネットワークを活かして協力したい。
- ・ 4 次総計の内容については引き続き進めていくべき。高齢化が進んでおり、今後の高齢化の見通しをもった上で、それぞれの年代に応じた施策を講じていく必要がある。
- ・ 各分野でボランティアをされている方を含めて意見交換をしたい。市の職員とざっくばらんな話ができる場を持てると検討も進めやすい。

- ・既存計画の進捗確認は必要だが、社会状況が変化しているため、それへの対応も必要である。議論すべきことが多いのでグループに分かれての意見交換が必要である。“地域経営”の考え方の説明があったが、実際にできているのは市民活動の支援ぐらいではないか。総合計画で計画したが実行できていないことの検証が必要である。
- ・グループでの検討会は必要。行政職員の意見も聞きたいので、事務局には積極的に参加していただきたい。経済状況の変化や地方分権の見通しなど、今後 10 年間の見通しについて事務局から情報提供していただければと思う。定例会以外にテーマごとの勉強会も必要である。他のグループでの検討状況も知りたいので事務局は会議に出席してほしい。
- ・個別テーマ毎に議論するのが好ましいと思う。そこで出た意見について、事務局は計画にしっかりと反映させてほしい。
- ・4次総計策定時の提言書作成に関わったがとても良い経験になった。一つのものをみんなで協力してつくっていくためには、何か共通の経験をすることが重要である。市内を視察したり、色々な方のご意見をいっしょに聞くことができればと思う。個別のグループで見学会やヒアリングの企画を行い、他のグループの人も参加できるようにできればと思う。4～5回の定例会では提言書作成を行うのは難しい。4次総計の提言書作成では、とりまとめを行う編集委員を置いた。
- ・自然環境や社会環境の変化などに対応していくため、10年先の社会状況を見据えた提言としていくことが必要である。市民委員には各分野で活動されている方も多いため、ご意見を聞いて議論を進めていくことが重要である。
- ・個別グループでまちに出向いて意見を聞いたり、オブザーバーとして専門家をお招きすることなどが必要である。八尾市 27 万人の意見を踏まえた提言としたい。
- ・10年といわず、もっと迅速に行動することが必要なこともある。時代の変化が速いので、10年という計画期間が適切かどうかということも検討する必要がある。

- ・市民委員からのご意見の後、学識委員から次のご意見がありました。

- ・これまでは個別施策についての評価が求められていたので全体的な議論ができなかった。会議をたくさん開くことは難しいと思われるので、どの程度の頻度であれば参加できるのかについて委員の意向をあらかじめ確認しておいた方がよいのではないか。また、社会的弱者などのご意見を聞く機会があってもよいのではないか。
- ・4次総計の検証結果についてしっかり説明し、委員に納得していただくことが必要だと思う。個別テーマの議論を積み上げていくことも重要であるが、10年後を見通した上で客観的なデータを下にした議論の積み重ねも必要である。
- ・5～6人のグループであれば議論を深めやすいのではないか。地域福祉計画の策定にあたっては市民参加が義務付けられるようになり、市民が文章を作成することが増えている。総合計画においても市民自らが文章の作成に取り組めればよいと思う。

・ここで、初谷座長からご意見の整理がありました。

- ・4次総計の検証はこれで終わりではない。継続すべきことと、変えていくべきことをさらに検討していく必要がある。
- ・10年という期間が適切かどうかを考える必要がある。10年間の見通しについての情報提供があればよい。
- ・事務局機能のあり方を考える必要がある。
- ・市民懇談会委員全体としての共通体験をもつことが重要である。
- ・オブザーバーとして市民の参加を求めたり、ハンディキャップを持った方々の意見聴取を行うことが必要である。

・引き続き、意見交換を行いました。

- ・4次総計に対する提言がどのように反映されたのかを知りたい。
→直接的には「将来像」にしか反映されていない。しかし、計画の随所に提言の内容は反映されている。例えば、地域経営の重視については我々の提言内容が反映されている。総計に反映されなかったことについては、提言書作成に関わった市民自らが取組を進めていこうと考え、活動を継続している。
- ・タウンミーティングや各種市民団体など他にもいろいろな取り組みがされている。この市民懇談会の立場をどのように考えたらよいか。
→この市民懇談会は、総合計画を審議する審議会とは別の立場にある。
- ・提言がどのように扱われるのかについては、提言の内容によるだろう。内容が充実しており、現実に見合ったものであれば大きく反映されることになるのではないかと考えている。
→いただいた提言書を精一杯反映させながら事務局案を作成したいと考えている。
→第4次総合計画の時には、市民懇談会の進め方自体についても、事務局の提案を白紙に戻して、自分たちで考えて活動を進めた。
→あくまでも意見を出す立場ということであればむなしく感じる。
→審議会が最終的な判断の場となるので、審議会に市民懇談会のメンバーが参加できるのが望ましい。
→審議会も答申を出すだけではないのか。総合計画とは、市長が判断し、市議会が承認するものではないか。
→市民懇談会が提言したことを行政側がどのように反映していくのかがわからない。審議会はどのように判断するのか。
→市民懇談会の意見が全て通らないのは仕方がないと思うが、少なくとも行政側から情報提供をしっかりと欲している。情報格差があるなかではまともな議論ができない。
- ・どのような組織であっても、計画（案）の作成は担当者が行っている。行政において基本構想（案）を作成される担当者には、市民懇談会に出席していただいて、市民懇談会の考え方をしっかりと理解してほしい。

- 総合計画（案）については、総合計画策定プロジェクトチームがとりまとめとなり、作成されるのではないか。
- 学識委員には、審議会に参加していただき、市民懇談会の意見や考え方が反映されるようにチェックしていただきたい。
- 行政担当者と、キャッチボールのように意見交換を重ねながら提言を作成していければと思う。
- 市民懇談会の想いが総合計画にしっかりと反映されていくことが重要である。
- 定例会以外での「話し合いの場」のあり方について、これまでのところ議論ができていない。4月までに委員間で議論を行い、その結果を4月の定例会に持ち寄るような進め方が望ましいのではないか。また、検討グループについては、複数のグループに参加できるようにしたい。
- 検討グループはAとBに分けるのか。
→AとBの複数に参加していただいてもかまわない。Aと定例会は別である。グループに分かれて検討することについての反対意見はなさそうである。
- 定例会の間に、委員間で連絡をとりあって意見交換を重ねていけばよいと思う。必ずしもメンバーや日時を確定させて進めていかないといけないわけではないと思う。
- 5～6人という人数規模は、意見をまとめるのには適当な人数だと思う。グループの分け方は、資料3のような分け方でも良いし、他の分け方でもよい。暫定的にグループを設置し、それぞれ活動企画を考えて、4月の定例会に持ち寄るという方法も考えられる。
- 複数のテーマに参加したい。
- 市民懇談会として、芯の通った提言書を作成すれば、それが無駄になることはないだろう。会議の回数ではなく質の問題だと思う。提言した内容が、総合計画や職員の日々の活動に少しでも反映されればよいと思う。グループ分けについては、例えば、「衣・食・住」の3つに分けることが考えられる。

- ご意見を受けて、初谷座長からまとめがありました。

- たくさんの意見を出していただき、良い議論ができたと思う。
- グループAについては、いずれ提言書を取りまとめる編集機能を担っていくことになるように思われる。
- 定例会以外に「検討の場」を設けていくこととしてよいか。（→了承）
- AとBの分け方についてはどうか。
→初谷座長のご説明のあったとおりで良いと思う。
- それでは、先ほど説明をした方向で進めていくこととしたい。ご参加いただくグループについては、皆様のご希望を集約して一度お示しし、それをご覧になった上で決定するようにしたい。
- 定例会だけでなく、様々な検討の場で活発に意見交換を行い、良い提言をまとめていくことができればと思う。

2) 今後の日程について

- ・事務局から今後の日程等について説明がありました。
- ・次回の市民懇談会は、4月4日（土）午前10時から開催する予定である。
- ・最後に「ふりかえりシート」を記入してお帰りください。

4. 閉会

以上